

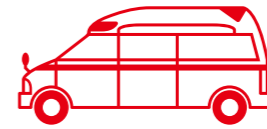
私たちも「救急隊員」の一員！ 市民連携が命を救う。

全国に誇る救急システムが完備された浜松。この恵まれた地域に住む私たちは、個人の意識を高めることで、さらに自分たちの命の安全を手に入れることができる。救急体制の充実には市民の協力があつてこそ！ 私たちも「救急隊員」の一員であるという自覚を持って過ごしてみよう。

救急車の数

平成23年4月現在、浜松市内の救急車数は21台。それ以外に、非常時の消防力の増強や車検・点検の代車として、非常用車両を7台保有。昼夜を問わずいつでも出動できる体制を整えている。

21台



出動回数の多い月

平成22年の統計では、出動回数が多い月順に12月、8月、1月。夏休みや冬休みの時期に入るからか、事故が増え、熱中症や季節柄の急病件数が多かったことなどが要因。12月は乾燥による火災増加も注意したい。

12月

出動回数の多い曜日

平成22年の統計によると月曜日がもっとも出動回数が多い。これは、一般負傷や急病による出動が多い事が理由である。土日の休み明けに、体が対応しきれていないからなのか…？ ちなみに出動回数が最も少ない曜日は水曜日だった。

月曜日



出動回数が過去最高だった日

過去に最も出動回数が多かった日は、ずばり平成23年1月17日(149回)。記憶している人も多いと思うが、大雪で浜松の交通網がまひしてしまったあの日。交通事故や転倒者が続出。この日ばかりは非常用救急車も出動しなくてはならなかったという。

平成23年

1月17日

守られている安心感は大切な市民の財産！

24時間体制で出動に備え、私たちの事故や病気の救急現場に駆け付けてくれる救急隊員。そんな彼らは、時に壮絶な場面にも遭遇し、その後のPTSD(心的外傷後ストレス障害)に苦しむ人もいるという。こうした過酷な業務に向かう救急隊員に、「心が折れそうになることはないの？」と質問してみた。すると、「二つ二つの経験が自分の血肉となり、市民を守る力になる。そして助けてくれてありがとう」という言葉と、喜んでもらえることが何よりのやりがい」と、力強く語ってくれた言葉が心に響く。

そもそも浜松で救急業務が開始されたのは、昭和28年。以来、救急車を利用する件数は、年を追うごとに増え続けてきた。それは同時に、数多くの命が救われてきたともいえる。特に浜松の救急体制は、前述のように、119番通報を受ける「消防指令センター」を中枢に、迅速で的確な通報システムが整備されている。さらに、多数の医療機関との連携が充実し、医療施設を全国に先駆けてネットワーク化した「浜松方式」は、各地の見本となっている。これは私たち市民の「安心」という大きな財産と言っても決して過言ではない。

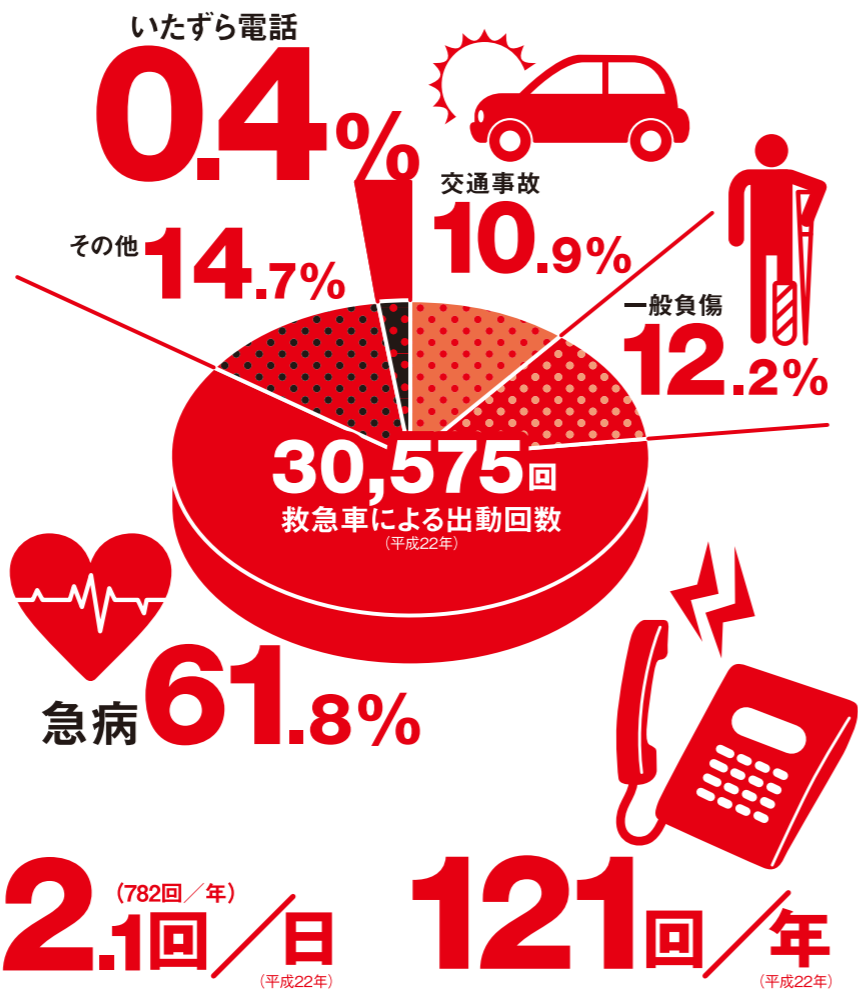
救急車の適正利用と意識の向上を！

昨今では、利用する側が、救急車をタクシー代わりにしたり、いたずら電話をしたりと、悲しい事例が増えているのも事実。悪質な電話に追われているその時に、一刻を争う人が、救急車を待っているかもしれないことを、私たち利用者は、肝に銘じなければならぬ。そして、優れた救急体制を活かすためには、私たち利用者側にも責任があることを今一度、確認しておきたいものだ。

さらに、私たちも「救急隊員」の一員という意識で暮らしたい。119番の通報をしてから、救急車が現場に到着するまでの平均時間は、およそ7分と言われる。その間に、病人やけが人の命をつなぐのは、周囲にいる私たち一般の市民。救急車を頼りにするだけでなく、自分たち一人一人が、救命知識を高めておくことが重要なのだ。

消防局では、市民向けに、救命講習(講義と実技)を実施し、受講者には「救命講習修了証」を交付している。人工呼吸や胸骨圧迫の方法とともに、AEDの使用方法などを理解しておく、もしものときにも心強い。ぜひ積極的に参加しよう。

救急隊はこんな理由で出動しています。



119番にかかってくる無言電話

無言電話は、1日に換算して2回以上かかってくる計算。もちろん、この数の中には、悪意の無い間違い電話や、声が発することができない状態といった回数も含まれている。しかし、意図的な「いたずら」があるのも事実。119番は、命をつなぐ電話であることを忘れないで。

出典:消防局情報指令課

いたずら電話による出動

救急車は、急病、交通事故、一般負傷などの通報で出動するが、中にはいたずら電話で出動させられている場合もある。平成22年はその数121回。全体の0.4%とはいえ、こうした出動の間にも、本当に救急を待っている人の通報があるかもしれないと思うと、この数はあまりに重い。

市役所、行きたいんだけど来てくれない？

救急車の適正利用が言われる昨今。いったい、どんな電話が掛かってくるのだろうか？ 消防指令センターに聞いてみました。

「バス代がない」とか「手段がない」ことを理由に、「病院まで」という119番通報も結構あります。中には、「市役所に行くために」という電話もありました。また、「水漏れがしているんだけど…」というような、どこに連絡していいかわからない困り事を電話してくるケースもありますし、人生や恋愛相談的なものもあります。このような電話には119番は緊急回線である旨を理解していただき電話を切るようにしています。無言の電話はありますが、苦しくて声も出せない状況かもしれないので、場所を特定して出動指令を出しています。

私たちは「もしも」の場合に備えていますので、いかなる通報も、緊急であるとの前提により出動指令を出しています。電話の向こう側の状況は分かりませんから、現場に駆けつけて確認をします。それで、何もなければ、命の危険な状況にいる人がいないということで、次の出動に備えます。でも、そのとき、本当に救急車を必要としている人がいたら？ 誰もがいつ何時、救急車が必要になるのか分かりません。その時のためにも、「命をつなぐ救急」として、119番を大切に使用していただけたいと思います。」

浜松市消防局
消防指令センター
消防士長 澤田健太郎



救命講習受講については

市ホームページ
(HP)トップ
→電子申請
→救命講習受講申請)